

## 第2回 つながろう CO-OP アクション交流会 参加報告

土井 すみ

【日時・会場】 2013年3月14日(木) 於 コラッセふくしま

【概要】・全体会 講演「原発事故から生協組合員の暮らしをとりもどしたい」

コープふくしま専務理事 野中俊吉氏

- ・分科会 福島分科会・宮城分科会・岩手分科会
- ・全体会 パネルディスカッション「被災地の今の課題と今後の支援活動を考える」

●最初の全体会でコープふくしまの野中専務理事より「原発事故から生協組合員の暮らしをとりもどしたい」というテーマでの講演がありました。住民目線を大切にして、放射能についての学習会を行ったり、外部被ばくをガラスバッチで実測したりと一つずつ進めてきたそうです。`陰膳方式による実際の食事調査`、や`福島県産品応援`、`仮設住宅住民訪問活動`、なども実施してきて純増で5,000人程組合員が増えているそうです。

●続いて福島分科会・宮城分科会・岩手分科会と3つの分科会ごとに別室に分かれ、報告を聞いてからグループディスカッションを行いました。

私が参加した福島分科会では、まず地元の小学校が作成したという震災時のDVDを観てから、コープふくしまの組合員理事の有松さん・渡辺さんから現在の組合員活動について、今後に向けて必要な取り組みなどの報告がありました。さいたまコープ地域ネットワーク部長の福岡さんからは、これまで行ってきた支援についての報告がありました。

●報告を聞いてグループごとにこれからの支援について考え、どんな支援があるか、またその支援を続けるため、広げるためにはどうしたらよいか、というように討議しまとめました。被災地を訪れる、被災地商品を購入する、被災者の心に寄り添う等、様々な意見がありましたが、震災を風化させない事がいちばん大切なのではないかと思います。



●最後に全体会として日本生協連の山内執行役員組織推進部長をコーディネーターに、コープふくしま野中専務理事、みやぎ生協小澤生活文化部長、いわて生協金子常務理事の3人によるパネルディスカッションが行われました。

大切にしたいことや、現在被災地で問題になっており解決すべき課題について意見が出され、右記のようにまとまりました。

福島	宮城	岩手
支援生協による 情報発信	復興の遅れによる 地域格差⇒ 個人間の格差	住まいと仕事の 再建
放射能被害の複雑性・多様性⇒ 全体から学ぶ	産業復興	被災地域の格差
応援の継続	母子のケア	

【まとめ】 私たちに求められているのは、被災地に遊びに行くでもよし、被災地のために募金する、被災地商品を購入する等、どんな形でもいいので自分にできることで支援を続け、震災を風化させないよう忘れないようにすることだと思いました。